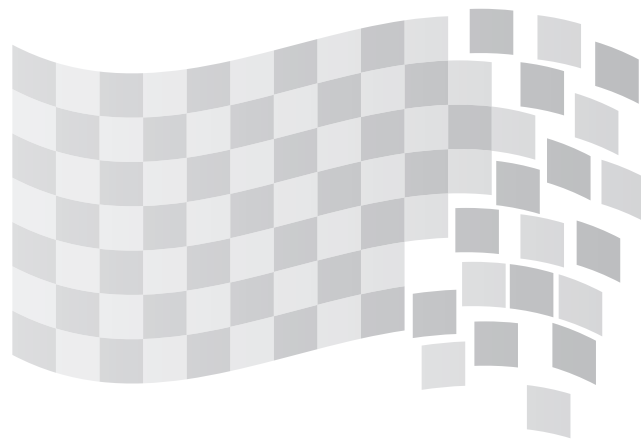


第 20 回
板橋区
医師会医学会



プログラム・演題抄録集

第 20 回医学会巻頭言

板橋区医師会は開かれた医師会を実現し、地域医療保健事業の充実を図ります。本医学会は、医療、看護、介護、福祉等で活躍している方にも、相互の情報交換の場として、1 日目に一般演題と外部講師による教育講演を企画しています。また、昨年から企画した公益社団法人板橋区医師会若手医師奨励賞授賞式を開催いたします。

治療・療養に多職種が関わるという観点から、要望演題は「難病・がん患者に対する新たな治療・療養の支援」といたしました。難病は、平成 27 年 7 月 1 日から対象疾病が 306 疾病と拡大し、療養現場でも新たな支援が必要になるところです。がんについては病状状態により、療養期間が短期であったり長期であったりと様々な病態があり、その支援にも工夫が必要になるところです。

19 領域目の専門医としての総合診療医が話題になっていますが、教育講演では、「専門医としての総合診療医～専門医制度とかかりつけ医の役割～」を一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会理事長の丸山泉先生にお願いしました。

2 日目は区民公開講座です。昨年に続き、午前中は映画「エンディングノート」を上映いたします。熱血営業マンががん宣告を受け、残された家族と自分の人生を総括するために「エンディングノート」を実行していく姿を収めた映画です。終活なる言葉もよく耳にしますが、昨年の特別講演「人生の最期を穏やかに過ごすために」と繋がるテーマとなっております。

午後のプログラムは、特別講演とシンポジウムです。「自然の尊重」というキーワードに基づき申請された和食が 2013 年 12 月にユネスコ無形文化遺産に登録されました。日本の食文化は、世界中で興味が高まっています。そこで「和食と健康」の講演を静岡文化芸術大学学長の熊倉功夫先生にお願いしました。

シンポジウムは寝たきり状態の原因疾患の第 1 位となっている脳卒中を取り上げました。脳卒中の現状と予防することができるポイントや見逃してはいけない危険なサインと新しい治療方法について、各分野の先生からご提示していただきます。

1 日目の素晴らしい演題発表を通して多職種間連携が強固のものとなり、2 日目の区民公開講座を通して区民の皆様が開かれた医師会を感じていただけることを祈念し、今後も皆様方からのご支援をお願いして挨拶とさせていただきます。

板橋区医師会医学会
会 長 水野 重樹

第2回公益社団法人板橋区医師会 若手医師奨励賞について

板橋区医師会では、板橋区内の医療を担う若手医師の育成を目的に、「公益社団法人板橋区医師会若手医師奨励賞」を平成26年度より新たに設けました。この賞は、日常診療への示唆に富む臨床症例の経験、臨床・社会医学研究を通じて、実践的で創造的な活動を行っている、満40歳未満（平成27年6月30日現在）の板橋区内に常時勤務している若手医師やそのグループを対象にしております。

昨年度は、最優秀賞1名と優秀賞3名の先生方を選考させていただきました。

今年度も第20回板橋区医師会医学会において、書類選考により選ばれた奨励賞対象の先生方数名に口頭で発表を頂き、併せて授賞式を執り行わせて頂きます。是非、多くの会員の先生方、並びにご関係の方々には、ご参加頂きますようお願い申し上げます。

次年度以降も本奨励賞を継続していく予定です。医師会として、板橋区内の医療の発展に少しでも寄与できればと考えております。

第2回公益社団法人板橋区医師会 若手医師奨励賞 発表 および 授賞式

日時：平成27年9月12日（土） 午後4時30分より

場所：板橋区文化会館小ホール

板橋区医師会医学会開催一覧（平成 8 年～平成 26 年）

回数	開催日	プログラム
第 1 回	1996 年（平成 8 年） 6/22・23	特 別 講 演 がん診療の現状－終末期医療について－ シンポジウム 21 世紀に向けた地域医療について－現状と将来について－
第 2 回	1997 年（平成 9 年） 7/26・27	特 別 講 演 高齢化社会における医療・保健・福祉の目標と評価 シンポジウム 板橋区における大災害時の医療対策 板橋区における在宅医療の構築
第 3 回	1998 年（平成 10 年） 8/29・30	シンポジウム 幼児学童期の精神面の諸問題と現場での対応 介護保険と医療・福祉の連携
第 4 回	1999 年（平成 11 年） 7/10・11	特 別 講 演 医療制度改革案について（特に参照価格制度について） シンポジウム 幼児学童期の感染症 板橋区における介護保険の準備（本音で語る介護保険）
第 5 回	2000 年（平成 12 年） 8/26・27	特 別 講 演 胃癌診断・治療の進歩 シンポジウム 小児救急 介護保険の現状と問題点
第 6 回	2001 年（平成 13 年） 7/14・15	特 別 講 演 医療と情報 シンポジウム 小児の生活習慣病 成人における生活習慣病を考える
第 7 回	2002 年（平成 14 年） 9/28・29	特 別 講 演 お医者さんのかかり方が変わる？ シンポジウム 小児のアレルギー－アレルギーを知りましょう－ 病院のかかり方－かかりつけ医をもちましょう－
第 8 回	2003 年（平成 15 年） 9/27・28	特 別 講 演 新型ウイルス性肺炎 SARS（重症急性呼吸器症候群） シンポジウム 板橋区健康づくり 21 計画－健康でいきいきとした暮らしをめざして－ 身近な感染症の予防－あなたももう一度見直しませんか－
第 9 回	2004 年（平成 16 年） 9/25・26	特 別 講 演 地域で痴呆を支える：かかりつけ医の役割 シンポジウム こころの生涯健康を考える 『たばこ』健康づくり・まちづくりの視点から－健康づくり応援型のまちの実現をめざして－
第 10 回	2005 年（平成 17 年） 9/24・25	特 別 講 演 若年者の性行動に向き合って シンポジウム 健やかな老後をめざして－介護予防と疾病予防－ これからの板橋の認知症ケアを考える AED 講習会
第 11 回	2006 年（平成 18 年） 9/23・24	教 育 講 演 健診を評価する：その意義と方法 特 別 講 演 健康づくりの食べ方と玄米二ギニギダンベル体操 シンポジウム 板橋区の子育て支援 板橋区における脳卒中对策について AED 講習会
第 12 回	2007 年（平成 19 年） 9/8・9	教 育 講 演 特定健診・特定保健指導－地域における新たな生活習慣病予防システム構築－ 特 別 講 演 メタボリックシンドロームを撲滅するために シンポジウム 気になる感染症－一体、いま何が問題なの!?－ いざ、病気になったら－効率的な医療機関へのかかり方－ AED 講習会

回数	開催日	プログラム
第13回	2008年(平成20年) 9/6・7	教 育 講 演 医療関連死と監察医制度 要 望 演 題 健診・検診 終末期医療とケア 特 別 講 演 豊かな生、豊かな死のために シンポジウム 子どもの心のケアについて 実戦！メタボリックシンドローム撲滅 AED 講 習 会
第14回	2009年(平成21年) 9/26・27	教 育 講 演 医療と政治－医政活動の原点を考える 指 定 演 題 糖尿病の介護と保健について 穏やかな最期を迎えるための医療と介護 特 別 講 演 糖尿病の早期治療の意義は？／特定健診・一般健診を活かそう シンポジウム 考えよう日本のあした－見直そう 子どもの生活習慣－ 早く見つけよう！－がんなんて怖くない－ AED 講 習 会
第15回	2010年(平成22年) 9/25・26	教 育 講 演 超高齢社会における医療介護の展望 指 定 演 題 退院前カンファレンス～入院から在宅まで、切れ目のない連携～ 施設間連携 二人の主治医(共同診療) 特 別 講 演 自分らしい死をどう迎えるか シンポジウム 次世代を担う子どもの健康を守るために 在宅でも安心！医療と介護
第16回	2011年(平成23年) 9/24・25	教 育 講 演 いつか大事故が起こる－平穏無事は危険信号－ 要 望 演 題 小児在宅医療 退院を含めた在宅療養支援 特 集 災害医療支援(東日本大震災を中心として) 別 講 演 ロコモと介護予防－寝たきりを防止するために－ シンポジウム 認知症！地域の力で支えよう 子育てアドバイス
第17回	2012年(平成24年) 9/29・30	教 育 講 演 東京都医療連携手帳の普及に向けて－がん診療に求められる医療 連携－ 要 望 演 題 胃ろう(経管栄養法)を考える 医療・介護現場における患者対応 特 別 講 演 いのちを商品にした国アメリカ～日本の宝を守るには～ シンポジウム 「災害と医療」 午前の部「災害時の医療ネットワーク」 午後の部「東日本大震災に学ぶ災害時の医療」
第18回	2013年(平成25年) 12/7・8	教 育 講 演 最近の医療訴訟の傾向と対策～診療所の法的リスクマネジメント～ 要 望 演 題 地域における多職種連携 糖尿病に関わる複数科連携 『宇宙医学の社会への還元』 特 別 講 演 宇宙と健康－安全な暮らしを支える宇宙開発－ トークセッション 有人宇宙飛行 黎明期に活動した二人の医師と宇宙飛行士が語る シンポジウム 宇宙医学と健康長寿
第19回	2014年(平成26年) 9/13・14	教 育 講 演 新型骨粗鬆症の恐怖～生活習慣病は要注意～ 要 望 演 題 小児医療に関する最近の話題 特 別 講 演 人生の最期を穏やかに過ごすために シンポジウム 今日からできる認知症の予防

演 題 発 表 に つ い て

○口演発表の方へ

1. 発表時間は、口演発表5分、質疑討論3分の合計8分です
※発表時間厳守をお願いします
進行につきましては、座長より指示がございます
2. PCによるご発表が可能です
3. 発表されるセッションの約30分前には2階小ホール前の総合受付へお越しください
4. PCを使用される場合は試写をいたしますので、2階小ホール前の総合受付後、「PC受付」にお立ち寄りください
5. 枚数制限はございませんが、口演時間内で無理のないようご注意ください
6. 発表時間10分前までには、発表会場内最前列左手の席にてお待ちください
7. スクリーン1面映写となっております

○PCを使用される方へ

ご発表に際してはUSBフラッシュメモリ、CD-R、またはPC本体（Windows、Macintosh）をお持ち込みください

◆USBメモリまたはCD-R持ち込みの場合（Windowsご使用で、ご発表内容に動画がない方）

- ・本会が準備する環境はWindows、PowerPoint 2003/2007/2010/2013です
- ・フォントは、文字化けやズレを防ぐためにOS標準のものをご使用ください
推奨フォント 日本語：MS明朝、MSゴシック 英語：Century

◆PC持ち込みの場合（Macintoshご使用の方または、ご発表内容に動画がある方）

- ・本会が準備するプロジェクターケーブルの端子は「ミニD-Sub15ピン」です
これに対応するPCをご持参ください
一部小型PC、Macintoshをご利用の方は変換コネクタをご用意ください
- ・スクリーンセーバー、省電力設定、個人認証などの機能はあらかじめ解除しておいてください
- ・発表中または準備中にバッテリー切れとなる恐れがありますので、電源コードは忘れずにご用意ください

※注意事項

- 当日、会場ではデータ修正はできません
- 念のため、バックアップデータを必ずお持ちください
- 作成したデータは、作成にご使用したPC以外でのPCで必ず動作をご確認ください

○演題発表座長の方へ

担当セッション開始 30 分前までに 2 階小ホール前の総合受付にて受付をすませ、10 分前には発表会場内最前列右手の席にてお待ちください

○ポスター発表の方へ

1. ポスターは 2 階小ホール前のスペースに掲示いたします
2. 13:30 までに 2 階小ホール前の総合受付にて受付をすませ、ご自身で掲示をお願いします
演題番号および貼付に必要な画鋏は事務局で用意いたします
3. ポスターは右図の要領で作成してください

サイズ 横 88cm × 縦 130cm

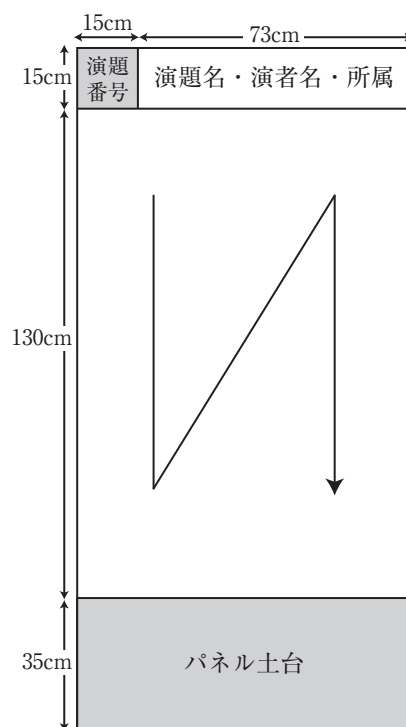
演題番号 事務局で用意いたします

演題タイトル 各自制作してください（横 73cm × 縦 15cm）

〈参考〉

- B5 (25.5cm × 18cm) 横 3 枚 × 縦 7 枚 = 全 21 枚
- A4 (29.5cm × 21cm) 横 3 枚 × 縦 6 枚 = 全 18 枚
- B4 (36cm × 25.5cm) 横 2 枚 × 縦 5 枚 = 全 10 枚
- A3 (42cm × 29.5cm) 横 2 枚 × 縦 4 枚 = 全 8 枚

4. ポスターは掲示のみで、発表はございません
5. ポスター掲示時間は 13:30 ~ 17:15 までとなっております
ご自身で持ち帰る場合は 17:15 ~ 17:30 の間に撤去をお願いいたします
時間が過ぎましたら事務局で撤去処分いたします



【取得可能な単位等】

医学会に参加することにより以下の単位等が取得できます。

9/12（土）

・日本医師会生涯教育制度 5 単位 カリキュラムコード（1, 2, 3, 4, 6, 14, 15, 73, 80, 81）

9/13（日） 区民公開講座

・日本医師会生涯教育制度 3 単位 カリキュラムコード（5, 8, 9, 11, 12, 13）

お問い合わせ先 公益社団法人 板橋区医師会 〒 173-0012 板橋区大和町 1-7
TEL. 03-3962-1301 FAX. 03-3964-3652
E-mail igakukai@itabashi.tokyo.med.or.jp

■ ■ ■ プログラム ■ ■ ■

9月12日 第1会場 2F小ホール

要望演題 「難病・がん患者に対する新たな治療・療養の支援」

各種のがんについて本人への告知が一般化し、治療面では低侵襲のがん治療、外来での抗がん剤治療、がんを抱えながらの就労、また在宅での緩和ケアや終末期など、近年、がん診療のあり方が大きく変化してきています。

またいわゆる「難病」について板橋区医師会では以前から「在宅難病患者訪問診療事業」に積極的に取り組んでいますが、入院治療だけでなく在宅において多職種がかかわりながら療養を支援していく方向が国から示され、それは小児についても例外ではなくなってきました。

がん患者や難病患者に関する新たな治療や取り組み・支援についての演題を医師、看護師をはじめ各職種から募集しました。

13:30—14:10

要望演題 1

座長：佐藤 恵（板橋区在宅医会 会長）

- 1-1 抗悪性腫瘍剤を含む処方箋応需における問題点
保坂洋二（板橋区薬剤師会）
- 1-2 視力障害のある独居高齢者の自宅退院に向けた退院支援
～肺癌治療のための分子標的薬内服指導を行って～
中村有希（東京都健康長寿医療センター 看護部）
- 1-3 腹膜癌に対する治療後に歩行障害を呈した1例
見附和鷹（日本大学医学部 内科学系神経内科学分野）
- 1-4 担癌患者における血栓症の合併とその治療について
深澤陽子（帝京大学医学部 内科学講座腫瘍内科）
- 1-5 日大板橋病院における前立腺癌に対するヨウ素 125 永久挿入密封小線源療法の治療成績と合併症の検討
松井 強（日本大学医学部 泌尿器科学系泌尿器科学分野）

14:10—14:58

要望演題 2

座長：斎藤恵介（帝京大学医学部泌尿器科学講座 講師）

- 1-6 終末期のがん患者と家族に対する看護支援
～外来化学療法室看護師が行うグリーフケアの課題～
古川麻央（帝京大学医学部附属病院 看護部化学療法室）
- 1-7 症例から考える末期心不全の終末期医療
今野幸恵（日本大学医学部附属板橋病院 看護部）
- 1-8 ICT を有効活用したがん療養支援の1事例
佐藤 恵（佐藤クリニック）
- 1-9 小児がん患者の終末期医療の問題点と展望
平井麻衣子（日本大学医学部 小児科学系小児科学分野）
- 1-10 終末期患者に対する慢性血液透析療法の見合わせの経験と考察
太田 樹（帝京大学医学部 内科学講座）
- 1-11 上顎歯肉癌を発症した統合失調症患者に対する緩和ケアの1例
宮城晶子（東京都保健医療公社豊島病院 緩和ケア内科）

15:06—15:46

要望演題 3

座長：吉野正俊（吉野内科クリニック 院長）

- 1-12 パーキンソン病患者の訪問リハビリテーションと多職種連携の有効性について
大室力也（中小路リハビリクリニック）
- 1-13 症状の進行が急速な難病患者の退院支援
清水佳代（東京都健康長寿医療センター 看護部）
- 1-14 急速に発症した若年者前縦隔腫瘍の3例
石本真一郎（日本大学医学部 外科学系心臓血管・呼吸器・総合外科学分野）
- 1-15 難病・がん患者に対する歯科診療を通しての療養の支援
澁谷英介（板橋区歯科医師会／渋谷歯科医院）
- 1-16 平成26年度在宅難病患者訪問診療事業実績について
加藤喜之（板橋区医師会）

15:46—16:26

要望演題 4

座長：石川 徹（小豆沢病院附属本蓮沼診療所 院長）

- 1-17 がんの指摘後に躁状態を呈した1例
早乙女優太（日本大学医学部 精神医学系精神医学分野）
- 1-18 一次検診の種類による早期乳癌の発見比率について
櫻井健一（日本大学医学部 外科学系小児・乳腺内分泌外科学分野）
- 1-19 癌患者を取り巻く地域医療のなかで救命センターが果たす役割
杉田篤紀（日本大学医学部附属板橋病院 救命救急センター）
- 1-20 肝細胞がん患者に対する理学療法介入の有無についての後方視的研究
守屋正道（日本大学医学部附属板橋病院 リハビリテーション科）
- 1-21 がん患者の療養支援における在宅医療コーディネーターの役割
塩原未知代（板橋区医師会在宅医療センター 療養相談室）

16:30—17:15

第2回公益社団法人板橋区医師会 若手医師奨励賞 発表 および 授賞式

17:20—18:20

教育講演

座長：弓倉 整（板橋区医師会 監事）

専門医としての総合診療医 ～専門医制度とかかりつけ医の役割～

丸山 泉（一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会 理事長）

9月12日 第2会場 4F大会議室

13:30—14:10

一般演題：看護 1

座長：橋本節子（板橋区医師会病院 看護部長）

- 2-1 糖尿病教育入院した患者家族への教育支援
～エンパワーメント法を用いた指導から学んだこと～
臼井俊輔（東京都保健医療公社豊島病院 看護部 6B 病棟）
- 2-2 誤嚥性肺炎予防へのアプローチ～口腔内乾燥改善をめざして～
近藤敏明（安田病院 看護科）
- 2-3 誤嚥を繰り返している高齢患者に対する援助
稲野愛理（板橋区医師会病院 看護部 S5 病棟）
- 2-4 後期高齢慢性心不全患者に対する退院に向けた支援
坂本真紀（東京都健康長寿医療センター 看護部）
- 2-5 高齢者のオピオイド（麻薬）内服患者の退院支援
山田由香理（東京都健康長寿医療センター 看護部）

14:10—14:50

一般演題：看護 2

座長：井上多鶴子（板橋区医師会 在宅看護部長）

- 2-6 高齢者の独居退院に向けた退院支援～患者の意思決定を尊重して～
北山香澄（東京都健康長寿医療センター 看護部）
- 2-7 要介護高齢者の独居退院に向けた患者支援～自宅退院を目指して～
野村梨映子（東京都健康長寿医療センター 看護部）
- 2-8 認知症のある糖尿病患者の退院支援～高齢の夫に対する指導と退院調整を行って～
山田理子（東京都健康長寿医療センター 看護部）
- 2-9 独居で暮らす認知症患者の自宅への退院支援
上村大輔（東京都健康長寿医療センター 看護部）
- 2-10 レスパイト入院患者に対する退院に向けた支援
石渡広輔（東京都健康長寿医療センター 看護部）

14:55—15:35

一般演題：看護 3

座長：岡崎理恵（東京都保健医療公社豊島病院 看護部副看護部長）

- 2-11 当院におけるがん相談支援センターの取り組み
牛山実保子（日本大学医学部附属板橋病院 がん相談支援センター）
- 2-12 体重増加不良児とその家族とのかかわり
宮崎雅代（板橋区医師会病院 看護部 N4 病棟）

○ 2-13 電子カルテ導入に伴う外来看護記録への意識変化

三上里美（板橋区医師会病院 看護部外来）

○ 2-14 大腸内視鏡検査の勉強会を開催して～外来内視鏡看護の考察～

折原康子（板橋区医師会病院 看護部外来）

○ 2-15 全身皮膚障害のある患者のストーマ管理

内海真由（板橋区医師会病院 看護部 S4 病棟）

15:35—16:15

一般演題：看護 4

座長：工藤明子（東京都健康長寿医療センター 看護部副看護部長）

○ 2-16 発達段階に合わせたプレパレーションの実施とその効果

高橋侑希（東京都保健医療公社豊島病院 看護部 4B 病棟）

○ 2-17 術前オリエンテーションによる創痛緩和と不安の軽減

堀内春菜（東京都保健医療公社豊島病院 看護部 3A 病棟）

○ 2-18 術後疼痛に影響を与える不安を軽減するための看護について

桜田幸枝（東京都保健医療公社豊島病院 看護部 3A 病棟）

○ 2-19 術後せん妄予防の看護～リアリティオリエンテーションの効果について～

相馬春奈（東京都保健医療公社豊島病院 看護部 3A 病棟）

○ 2-20 せん妄状態にある患者への日常生活支援～その人らしい環境を整えることの必要性～

小堀麻子（東京都保健医療公社豊島病院 看護部 6B 病棟）

18:25—20:00

懇親会

9月12日 第3会場 3F第3会議室

13:30—14:02

一般演題：外科1

座長：高山裕史（高山整形外科 院長）

- 3-1 神経特異エラノーゼ（NSE）が陽性であった腎細胞癌の1例
子安洋輝（帝京大学医学部附属病院 泌尿器科）
- 3-2 神経内分泌型非浸潤性乳管癌の1例
柳澤貴子（帝京大学医学部 外科学講座）
- 3-3 急性頸部痛を来した偽痛風疾患：石灰沈着性頸長筋腱炎と crowned dens syndrome の3症例
大森翔平（帝京大学医学部 整形外科学講座）
- 3-4 肺扁平上皮癌の上腕軟部転移に対して gefitinib（イレッサ®）が奏功した1例
片岡佳奈（日本大学医学部附属板橋病院 整形外科）

14:02—14:34

一般演題：外科2

座長：瀬在 明

（日本大学医学部 外科学系心臓血管・呼吸器・総合外科学分野講師）

- 3-5 腹部大動脈瘤のスクリーニングとステントグラフト治療の実際について
今水流智浩（帝京大学医学部 心臓血管外科学講座）
- 3-6 下血を契機に診断された巨大腸骨動脈瘤の1例
松岡 俊（日本大学医学部 外科学系心臓血管・呼吸器・総合外科学分野）
- 3-7 経カテーテルの大動脈弁置換術（TAVR）時代の高齢、大動脈高度石灰化、透析患者さんに対する心尖部－左鎖骨下動脈導管の有用性
河田光弘（東京都健康長寿医療センター 心臓外科）
- 3-8 術中胸腔鏡により左室内血栓を診断し、血栓摘出術、左室形成術、僧帽弁置換術、CABG を施行した1例
有本宗仁（日本大学医学部 外科学系心臓血管・呼吸器・総合外科学分野）

14:37—15:09

一般演題：小児

座長：渡邊直樹（板橋区医師会病院 小児科部長）

- 3-9 「板橋区医師会の子どもの心の医療連携」子どもの心の診療医と5歳児発達診療
平山貴度（板橋区医師会）
- 3-10 板橋区平日夜間応急こどもクリニックの活動報告
宮川美知子（石川医院）
- 3-11 胃腸炎に伴う良性けいれん7例の臨床的検討
青木亮二（板橋区医師会病院 小児科）

- 3-12 体重増加不良と湿疹を主訴に血中 TARC が異常高値であった 1 例について
橋本光司（ときわ台はしもと小児科アレルギー科）

15:12—15:44

一般演題：外科 3

座長：栗藤克巳（板橋区医師会病院 外科部長）

- 3-13 網目状構造を伴った特異な胃癌の 1 例
大坂晃由（東京都保健医療公社豊島病院 外科）
- 3-14 5 年生存が得られた同時性肝転移を伴うステージⅣ大腸癌の 1 例
安田武史（安田病院 消化器科）
- 3-15 BMA（Bone Modifying Agents）の使用に関連する顎骨壊死の実際
兼古晃輔（帝京大学医学部附属病院 歯科口腔外科）
- 3-16 超高齢者に対し口腔癌治療を行った 1 例
齊藤美香（東京都健康長寿医療センター 歯科口腔外科）

15:44—16:24

一般演題：外科 4

座長：安田武史（安田病院 院長）

- 3-17 インターフェロン治療後の C 型肝硬変に発癌した肝門部肝細胞癌に対して切除しえた 1 例
池田 豊（帝京大学医学部 外科学講座）
- 3-18 ERCP 後重症急性膵炎に対して術前補助化学療法施行し根治切除した胆管癌の 1 例
豊田真之（帝京大学医学部 外科学講座）
- 3-19 胆摘後黄疸発症した中部胆管癌の 1 例
伊藤博道（帝京大学医学部 外科学講座）
- 3-20 肝門部から Treiz 靱帯を越えて拡がる膵頭部 IPMN の一切除例
川村幸代（帝京大学医学部 外科学講座）
- 3-21 特異な形態を呈した急性胆嚢炎の 1 例
河合陽介（東京都保健医療公社豊島病院 外科）

9月12日 第4会場 3F第2会議室

13:30—14:26

一般演題：内科1

座長：池谷之利（板橋区医師会病院 内科部長）

- 4-1 インフルエンザ抗原測定検査実施のタイミングについて再考する
依藤 壽（よりふじ医院）
- 4-2 細菌性肺炎との鑑別を要したアレルギー性気管支肺アスペルギルス症
藤原大士（日本大学医学部 内科学系呼吸器内科学分野）
- 4-3 都市在住高齢者の受療行動について
小山照幸（東京都健康長寿医療センター リハビリテーション科）
- 4-4 Sheehan 症候群の経過観察中に、嘔気・嘔吐を契機に低 Na 血症，副腎皮質機能低下症をきたした1例
武村拓也（東京都健康長寿医療センター 糖尿病・代謝・内分泌内科）
- 4-5 前庭神経核に限局する小梗塞は偽前庭徴候を呈しうる
河村保臣（帝京大学医学部 神経内科学講座）
- 4-6 Isolated body lateropulsion を呈した延髄外側梗塞
山川祐司（東京都保健医療公社豊島病院 神経内科）
- 4-7 板橋区医師会脳卒中懇話会の活動
弓倉 整（板橋区医師会）

14:26—15:22

一般演題：内科2

座長：藤田雅巳（藤田医院 院長）

- 4-8 胸部撮影における入射線量の検討
永野宏昌（板橋区医師会病院 放射線科）
- 4-9 豊島病院におけるマンモトーム生検の結果報告
谷野祐子（東京都保健医療公社豊島病院 放射線科）
- 4-10 高齢者ブレインバンク活動報告
瀬川千尋（東京都健康長寿医療センター研究所
老年病理学研究チーム神経病理（高齢者ブレインバンク））
- 4-11 特異的な病理所見を呈した心筋炎の1例
早瀬未紗（日本大学医学部 内科学系循環器内科学分野）
- 4-12 観光旅行に来日し，心停止，蘇生後早期に退院，帰国搬送となった外国人患者の1例
大山裕太（帝京大学医学部附属病院 救命救急センター）
- 4-13 持続性の腹痛で救急搬送され Leriche 症候群と診断した1例
後藤法広（帝京大学医学部 救急医学講座 ER センター）
- 4-14 大動脈瘤切迫破裂と肺胞出血を合併した急性腎障害の1例
塩山知里（東京都保健医療公社豊島病院 腎臓内科）

15:27—16:31

一般演題：総合／その他

座長：大野安実（おおの内科クリニック 院長）

- 4-15 足趾把持力の強化方法について
三浦一将（板橋区柔道整復師会）
- 4-16 Lisfranc 関節損傷～マクロ解剖からみた治療の考え方～
山本 清（板橋区柔道整復師会）
- 4-17 服薬指導より認知症外来の受診につながった1例
保坂洋二（株式会社サニーファーマシー サニー薬局）
- 4-18 日本の介護技術の承継システム構築～ São Paulo のフィールド調査から～
村尾和俊（前野病院 居宅介護支援事業所）
- 4-19 安心・安全な治療食提供を継続するために～ DVD を用いた研修ツールの開発～
浅川沙織（東京都保健医療公社豊島病院 栄養科）
- 4-20 板橋区歯科衛生センターにおける 30 年の診療動態
田中雅博（東京都板橋区歯科医師会）
- 4-21 当院における平成 25, 26 年度区民一般健康診査の眼底検査の結果
佐藤真由子（中川医院）
- 4-22 平成 26 年度眼底検査及び眼科検診結果報告
高浦典子（板橋区医師会病院 眼科）

ポスターセッション 2F小ホールロビー

13:30—17:15

P-1 平成 26 年度板橋区尿検診結果について

鈴木育夫（板橋区医師会 尿検診班）

P-2 平成 26 年度板橋区学童心臓検診についての報告

泉 裕之（板橋区医師会 循環器系検診班）

P-3 呼吸器疾患スクリーニング検診班の活動について

大森千春（板橋区医師会 呼吸器疾患スクリーニング検診班）

P-4 板橋区肝炎ウイルス検診結果報告（平成 26 年度）

石川 徹（板橋区医師会 肝炎検診班／小豆沢病院 内科）

P-5 板橋区胃がんリスク検診の現状と課題

矢郷祐三（板橋区医師会 胃がんリスク検診班）

P-6 板橋区肺がん検診の現状（平成 25 年度および 26 年度）

萩原照久（板橋区医師会 胸部読影班）

P-7 板橋区の乳がん検診について

小川勝由（板橋区医師会 乳がん検診班）

P-8 板橋区における咽頭がん検診について

河原秀明（板橋区耳鼻咽喉科医会）

P-9 もの忘れ相談医の自院における活動状況

堀井有尚（板橋区医師会）

P-10 地域医療に対する区民意識調査～平成 26 年度板橋区民まつりアンケート集計～

加藤喜之（板橋区医師会）

9月13日(日) 区民公開講座 共催：板橋区
第1会場 2F 小ホール／第2会場 4F 大会議室

■映画上映 「エンディングノート」

10:00 - 11:40

お話（映画終了後、ノートの使い方などを解説します）

東京都健康長寿医療センター研究所 福祉と生活ケア研究チーム研究員

島田千穂

■挨拶

来賓、主催者

13:00 - 14:25

■特別講演

座長 板橋区医師会 前会長

天木 聡

「和食と健康」

静岡文化芸術大学 学長

熊倉功夫

■シンポジウム 「脳卒中の予防と治療」

14:40 - 16:45

座長 東京都保健医療公社豊島病院 院長

山口武兼

板橋区医師会 会長

水野重樹

1. 「板橋区における脳卒中の実態」

板橋区医師会 監事／板橋区脳卒中懇話会 代表世話人

弓倉 整

2. 「脳卒中の予防 ― 知っておくべき危険なサイン」

日本大学医学部附属板橋病院 病院長

平山篤志

3. 「脳卒中の新しい治療：脳卒中かなと思ったらすぐに病院へ」

帝京大学医学部 脳神経外科学講座 主任教授

松野 彰

ディスカッション

※区民公開講座は申込制となっています（定員 470 名）。

参加ご希望の方は、往復ハガキに

①区民公開講座申込 ②郵便番号・住所 ③氏名（ふりがな） ④年齢

⑤電話番号 ⑥職業 ⑦同伴者氏名（ふりがな）・年齢

を明記のうえ、板橋区医師会医学会事務局宛（〒173-0012 板橋区大和町 1-7）へ

お申し込みください。定員になり次第締切となります。